

BTCC “**新規口座開設限定**”

BTCC口座開設&入金で、最大**17500USDT**が獲得できる。
お友達を紹介するとさらにボーナスをプレゼント!

今すぐ口座開設/詳細はこちら



オフショア人民元を裏付けとしたステーブルコイン は有望か?

原文:

<https://www.btcc.com/ja-JP/academy/research-analysis/are-stable-coins-backed-by-offshore-renminbi-cnh-promising>



世界経済におけるドル支配

中国にとって、世界経済におけるドル支配は常に頭痛の種となる。[暗号資産（仮想通貨）](#)、特に[ステーブルコイン](#)の出現はドル支配にとって最も好都合だったのだ。

1560億ドル（約21兆円）規模のステーブルコイン市場は、ほぼドル建てになっている。ステーブルコインが国際貿易で利用されるにつれて、世界経済におけるドル覇権は強化されていた。

事実上、アメリカが世界を支配していることを意味するからだ。中国有数の通信機器メーカーであるファーウェイに対する規制、イランに対する輸出規制などが思い浮かぶ。

「オフショア人民元（CNH）」を裏付けとしたステーブルコイン

国外市場での取引専用が発行された「オフショア人民元（CNH）」を裏付けとしたステーブルコインというアイデアは、ドル支配の状況を打破できるだろうか。

理論的には面白いが、人民元の利用を拡大することは難しいだろう。

中国では資本規制によって、企業は外貨を5万ドルしか購入できない。そのため、国外に多額の資本を送る手段として、ステーブルコイン [テザー \(USDT\)](#) やUSDコイン (USDC) への需要が増えていく。

資本規制は国際ビジネスを難しくするが、中国は人民元の安定性を優先し、資本規制を中国人民銀行 (PBoC) の財政政策の柱としている。規制によって、米ドル、カナダドル、日本円、ユーロなどが受けているような市場の圧力から切り離されているため、人民元はより安定的な通貨となっている。

人民元のシェアとオフショア人民元

だがこれは、中国は世界第2位の経済大国であるにもかかわらず、人民元のシェアはその地位に比例していないことを意味する。世界の決済における人民元のシェアは、2%程度に過ぎない。

一方、中国政府は人民元の資本規制を維持したまま、海外資本にアクセスできる方法を模索している。

2010年、中国政府はまずは香港で、その後、シンガポールとルクセンブルグでオフショア人民元を発行し、「点心債」(中国の資本規制外で海外資本を集めるために中国企業が発行する債券)市場を切り開こうとした。だがオフショア人民元は通貨と呼べるものではなく、点心債の購入・取引以外に使い道はない。

オフショア人民元に裏付けられたステーブルコインを作ることは難しいだろう。

点心債市場の時価総額は800億ドル強で、これはピーク時のUSDTの時価総額にほぼ相当する。USDTやUSDCに対抗し得るステーブルコインを発行するには、発行量が足りなくなる可能性がある。

これはオフショア人民元に限った問題ではなく、シンガポールドルに裏付けられたステーブルコインを発行する試みも供給量の問題にぶつかっている。

【他の記事】

[米コインベース、ザ・サンドボックス \(SAND\) を上場予定](#)

[コインベース、仮想通貨不況で約18%の人員削減を発表](#)

[エルサルバドル、21年9月以来ビットコイン保有価値は半減](#)

[【渋谷開催】7月11日「Non Fungible Tokyo 2022」開催](#)

[「NFTokyo 2022 EVE POKER PARTY」、7月10日東京で開催](#)

[世界最大規模のNFTイベント「NFT.NYC」がNYで開幕へ](#)